

もりやま顔見え通信

第20号 平成28年11月16日



発行：守山顔の見える会

「第20回守山顔の見える会」が開催されました！

日に日に秋が深まる季節となりましたが、皆さんいかがお過ごしでしょうか。
第20回目は、ふれあい薬局 管理薬剤師 鈴木文子さんから、在宅での服薬管理についてお話をいただきました。

グループワークでは、話が盛り上がり、活発な意見が飛び交いました。

【開催日】平成28年10月13日（木）18：15～19：45

【内容】学習会、グループワーク

【会場】すこやかセンター 3階 講習室

【参加者】医療関係者 20人、 介護関係者 27人
民生委員児童委員 1人、 行政等 15人

合計 63人



学習会 「在宅での服薬管理について ～在宅療養における薬剤師の役割とは～」

ふれあい薬局 管理薬剤師 鈴木 文子 さん

「いろいろな科・病院を受診していて、お薬の管理に大変…」
「錠剤やカプセルを処方されているけど、なんだか最近飲みにくくなった」
「気になるこの症状は、薬の副作用からなのかな…？」

など、市民のみなさんから、お薬について困っている事をよく聞きます。

今回は、そんなお困りごとを解決するため、薬剤師さんのお仕事について教えていただきました！



お困りごと① 飲み忘れが多く、残薬がある

★まずは、どうして飲み忘れや残薬があるのかを考えます。

【原因】

- 朝起きるのが遅くて、朝の薬が飲めない
- 朝出かけるときに持って行くのを忘れる
- 認知症があり、薬を飲むことを忘れる
- 処方された薬の副作用などが気になり、飲みたくない

など



患者さんのお話を聞き、生活スタイルに合わせた提案をしていきます。

例えば…

- 副作用の少ないお薬に変更したり、飲みやすい時間帯に変更できるよう、主治医に相談します。
- お薬を一包装してわかりやすくします
- 投薬カレンダーを使って、管理しやすくします。

お困りごと② 錠剤・カプセルが飲みにくくなった

飲みやすい剤形で同じ効果のあるお薬への変更を提案します。

お困りごと③ 吸入薬が使いにくくなった

吸入薬の器具の変更や吸入補助具を提案します。

お困りごと④ インスリン注射の手技が不安

訪問看護師と連携してインスリン注射の手技の確認や見守り、また、必要に応じてインスリン注射の種類の変更の提案をします。

残薬持参袋もご紹介いただきました⇒



その後、グループで話し合いました。
テーマ：適切な服薬管理のために多職種でできることは何か



「残薬内容確認票・預かり票」
を活用していきたい。

薬局窓口では、認知症の人や独居の人などに一包化を提案していきたい。

重複して服用することは危険であり、それを防ぐためには、主治医、薬剤師、訪問看護師、ケアマネジャー等の多職種で連携を図ることが重要。

まずはそれぞれの多職種が、薬に関するさまざまな情報を素早くキャッチし、ケアマネジャーに伝え、情報を集約する。そこから薬剤師や主治医との連携を図り、多職種全体で服薬管理を支えていく。

サービス担当者会議に、薬剤師をはじめとする多職種が参画し、いろいろな方向・視点から情報共有し、利用者の生活スタイルに合わせた服薬管理を検討していきたい。



内服薬の種類が多く、困っている人について、薬剤師が残薬を確認した上で主治医に相談し、内服薬の調整が上手くいった。

薬の管理に関することは、まずは薬剤師に相談したい。

独居や認知症の人で、薬剤師が週1回くらいしか介入できない場合には、利用者に関わる機会の多い訪問介護による服薬確認や情報共有が必要。



～ 感想 ～

- 残薬の確認方法やかかりつけ薬剤師の役割を学び、理解することができた。本日の内容を伝達していきたい。
- 服薬管理について、これからは薬剤師さんを巻き込んでいきたい。
- 利用者の命に関わる薬について、さらに気を付けて管理する必要性を強く感じた。
- 多職種の方と集まって意見交換する機会がなかったので、いい勉強になった。

などの感想をいただきました。

～次回ののお知らせ～ *次回は、第2木曜日開催です。

第21回 平成28年12月8日(木) 18:15～19:45 すこやかセンター3階講習室
学習会 「施設での看取りについて(仮)」

多くの方にご参加いただき、ありがとうございます。次回もたくさんのご参加をお待ちしています。

問い合わせ：事務局 守山市健康福祉部 在宅医療・介護連携サポートセンター

TEL：581-0340 FAX：581-0203